

つなぐ貝類漁業のバトン  
～九十九里スタイルの新しい風～

九十九里漁業協同組合長生小型船団

竹之下 卓也

1. 地域の概要

私の住む千葉県長生郡白子町は、千葉県東部の9市町村に跨る全長約66kmに及ぶ日本最大級の砂浜である九十九里浜の南部に位置している(図1)。

九十九里浜は、風光明媚なことから、古くから首都圏の保養地として利用され、多くの文人や墨客が訪れるなど親しまれてきた。また、海岸周辺の水質が良好で、適度な波が打ち寄せることから、海水浴やサーフィンなどのマリレジャーが盛んであり、夏を中心に周年観光客が訪れる。また、2020年東京オリンピックのサー



図1 長生郡白子町の位置

フィン競技が一宮町の釣ヶ崎海岸で行われることが決まっており、国内外から多数の観戦客、観光客が訪れることが想定される。

2. 漁業の概要

私が所属する九十九里漁協は、平成22年4月に九十九里浜南部の長生、白里、九十九里町、成東町、山武市蓮沼、横芝の6漁協が合併して設立された。平成31年4月1日現在の組合員数は、正組合員193名、准組合員176名の計369名である。そのうち、長生地区の正組合員は25名、准組合員は52名の計77名となっている(図2)。

九十九里漁協に所属する漁業者は、貝桁網、ま

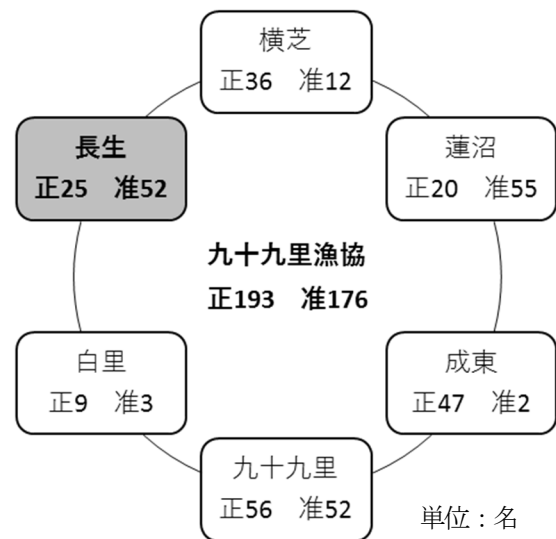


図2 九十九里漁協の組織

き網などの漁業を営んでいる。

私が従事している貝桁網漁業は、底びき網漁法のひとつで、鉄製の「まんが」と呼ばれる漁具を2つ使い、一方を船首側の前方に投入し、もう一方を船尾側の後方に投入し、ウインチで交互に巻き上げて、砂に潜っているナガラミ（標準和名 ダンベイキサゴ）、ハマグリ（標準和名 チョウセンハマグリ）などの貝類を漁獲している（図3）。

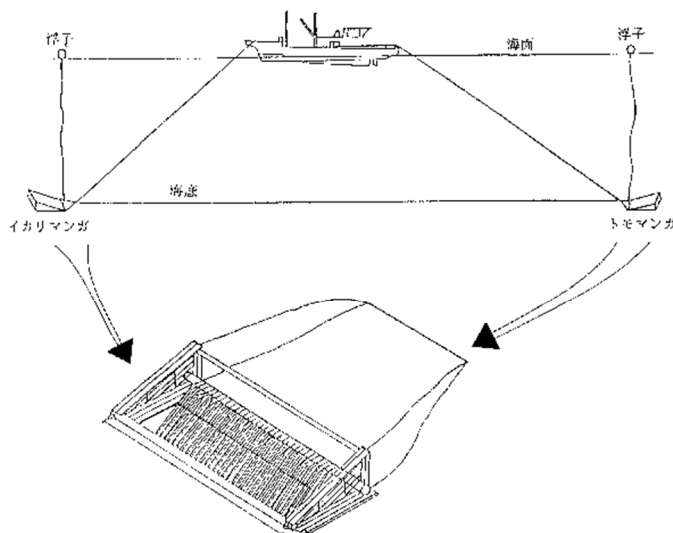
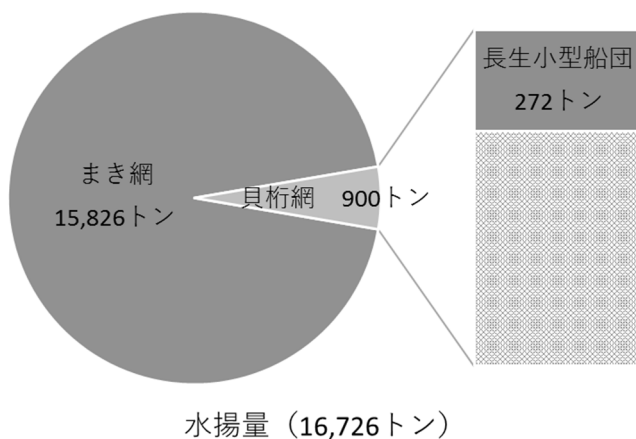
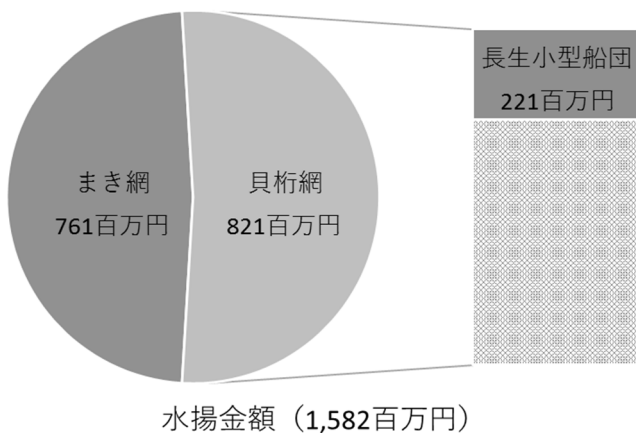


図3 貝桁網漁業



水揚量 (16,726トン)



水揚金額 (1,582百万円)

図4 九十九里漁協の水揚量・金額  
(平成30年度)

九十九里漁協の平成30年度の総水揚量は約16,700トン、総水揚金額は約16億円となっている。そのうち、貝桁網の水揚量と金額は、それぞれ約900トン、約8億円であり、総水揚量の約5%、総水揚金額の約52%を占めている（図4）。

### 3. 組織と運営

九十九里漁協の貝桁網船団は、合併前の旧漁業権漁場ごとの6船団で構成されている。過去には、各自が無制限に貝類を漁獲していたが、資源の減少や単価の下落につながったことから、九十九里浜の他の漁協の船団とともにプール制による共同操業を行うようになった。私が所属している長

生小型船団には、12隻17名が所属していて、12隻が4グループに分かれて、各グループから交代で1隻ずつ出漁し、船上で4～5名が共同で作業している。なお、平成30年度の長生小型船団の水揚量と金額は、それぞれ約270トン、約2億円となっており、漁協の貝桁網水揚量の約30%、金額の約27%を占めている（図4）。

#### 4. 漁師になるまで

##### (1) 私自身の紹介

私の出身地は、海のない埼玉県川口市で、子供の頃は、湘南に海水浴に出かけるのが数少ない海との接点だった。その後、海とは直接関係のない自動車の整備業や運送業などに勤めてきた。20歳になってからは、当時再流行していたサーフィンをはじめ、埼玉から近い九十九里浜や鹿島灘に出掛け、だんだんと波に乗る楽しさに夢中になっていった。

##### (2) 漁師になろうと思った動機

サーフィンにのめりこむうちに、海の近くに住みたいと思うようになった。そこで海の近くでできる仕事といえば、漁師になることがいいのではないかと考えた。波の穏やかな日は仕事をし、波の立つ日はサーフィンができると思ったが、知人に漁師がいなかったので、自分でインターネットを使い、漁師の募集や就業に関する情報を探し始めた。すると、タイミングよく新規漁業就業者を募集する全国漁業就業支援フェアが、平成27年12月に開催されることを知り、早速参加した。

フェアでは、希望していた九十九里浜に近い場所での出展者を探したところ、九十九里浜のさらに南にあるいすみ市で小型漁船漁業を営む、拓永丸が出展していたので話を聞いた（図5）。拓永丸の船主である中村さんからは、「自分が漁業に向いているかどうかを、まず体験乗船して確認してはどうか」というアドバイスもらった。



図5 漁業就業支援フェアでの  
相談の様子

そこで、千葉県からの誘いを受け、平成28年2月に新規就業希望者向けの5日間の漁業技術研修（短期研修）を受講した。

研修中は、拓永丸が冬に行っているひき縄やたこつぼ漁などに同行したり、時化の日は漁具の準

備などを体験した。短い期間ではあったが、漁の厳しさとやりがい垣間見て、ますます漁師になりたいという気持ちが高まっていった。

## 5. 漁師になって

### (1) 長期研修を体験して

短期研修の後、千葉県地域漁業担い手確保・育成支援協議会が実施している新規漁業就業者確保事業（長期研修）を利用して、拓永丸が受け入れ先となり、1年間の研修を受講した（図6）。

拓永丸は、いすみ市の大原漁港を拠点とし、北は飯岡沖から南は鴨川沖を漁場とし、親子二人でサワラやワラサなどのひき縄やたこつぼの他に、イセエビさし網、トビウオ流しさし網など多様な漁業種類を季節や漁況に応じて営んでいる。様々な漁業種類を営んでいるため、覚えることが多かったこと、研修で乗り始めた当初は船酔いがひどく、なかなか体が慣れなかったことなど、大変なこともあったが、天気の見方や網の使い方など漁業の基礎を教えていただき、勉強になった。この経験は今に生きており、大変ありがたかった。



図6 いすみ市での長期研修

大原漁港には、若い漁家子弟や乗組員が多く、私と同じ地区外の出身の者もいた。漁業だけでなく地域での生活などについて相談に乗ってもらったり、時には一緒に酒を飲んだり、サーフィンに行ったりと、交流を深めたおかげで、寂しい思いをせずに過ごせた。

### (2) 長期研修後から着業まで

拓永丸での長期研修後、しばらくは夷隅東部漁協でアルバイトとして働きながら、雇ってくれる船を探していた。平成29年10月に九十九里漁協長生支所所属の貝桁網漁業を営んでいる貢栄丸から、試しに乗って見ないかと誘いを受けた。乗船したところ、長期研修で身に着けた基礎的な技量を評価され、「すぐにでも来い」と言われて平成29年11月から着業した。貢栄丸には後継者がおらず、将来的には船の譲渡及び技術・技能の伝承を受けることを視野に入れた雇用となっており、私にとっては、願ってもない話であった。

### (3) 着業から現在

長生小型船団で貝桁網に着業してからは、主に「まんが」の上げ下ろしや船上での選別作業を担当している。かなり体力を使う作業ではあるが、一番初めに貝の獲れ具合が見られるので、楽しいと感じる部分もある。(図7)。



図7 貝桁網の選別作業

先述のように、長生小型船団ではプール制による共同操業を行い、過度の操業を避け、貝類資源を保護しているほか、これまでの取組としては、資源保護のための①水揚上限量等の設定、②保護区の設定(図8)、③ハマグリ

リの沖出し放流、供給量の安定のための他船団との出漁日の調整、ハマグリを舌切れ防止のための曳網速度の低速化などを行ってきた。

競争せずに協力して収益を上げるこのようなやり方は、資源量の変動が大きい貝類資源を持続的に利用していく優れたシステムであると考えている。

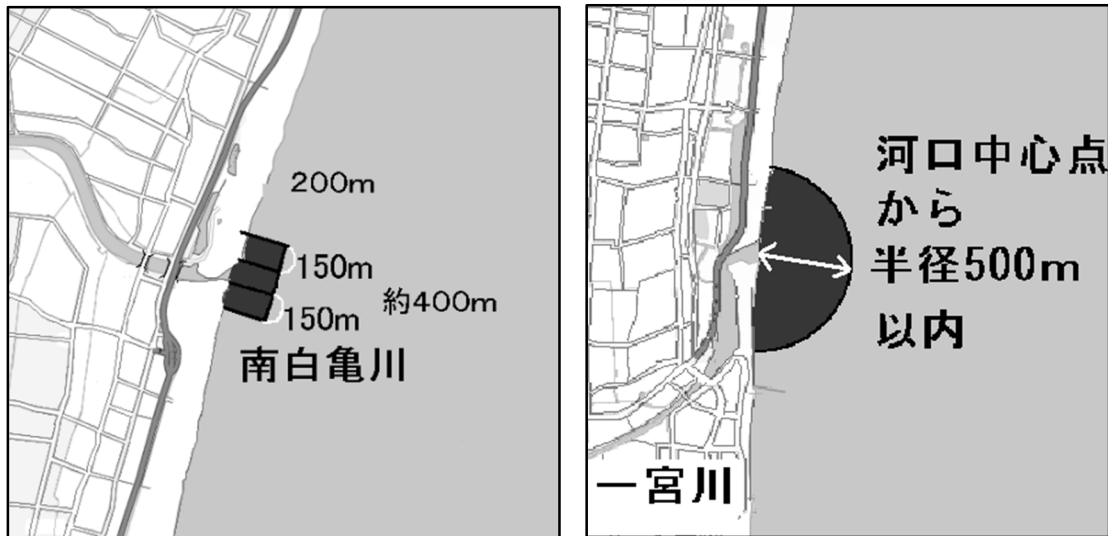


図8 保護区の設定

私が船団に入ってから取組としては、ハマグリを舌切れと割れ貝の発生が問題となっており、市場での単価にも影響していたことから、それらを抑制し、品質をより一層向上させることを目的に、平成31年1月からハマグリ「まんが」をこれまで使っていた幅約3m、爪の長さ約8cmのものから、長生、白里以外の船団が使っていた「ほっきまんが」と呼ばれている幅約2.1m、爪の長さ約12cmのものに替えた。

さらに、私は漁業に就業してからまだ日が浅いが、漁業に就業する前の仕事である自動車の整備

で培ったエンジンや電気系統の整備の知識と技能が役立っている。相当、大ごとにならないければ専門業者を呼ばなくてもメンテナンスできることから船団でも重宝されている。

## 6. 波及効果

### (1) 資源管理と品質の向上

九十九里地域の貝類資源量の動向は不安定であるが、これまでの資源管理の取組の結果、ナガラミ、ハマグリとも資源が良好な状態が保たれ、ここ数年の水揚量は増加している(図9)。

平成31年から「まんが」を爪の長いものに替えたことにより、ハマグリは舌切れの割合は

2~3割程度減少したほか、割れ貝が大幅に減少した。このことにより、私たちの獲ったハマグリが、従来と比べて市場で仲買人から高く評価されるようになった。

### (2) 若手漁業者同士の団結

貝類の水揚量が増加していることで、長生地区では、この5年間に私を含め5名の若手漁業者が就業している。貝桁網漁業は共同操業であることからお互い協力することが多く、私達5名の団結も強いものがある。私は、エンジンや電気系統の知識やいすみ市で経験したことを伝え、他のメンバーからは採貝漁業についての知識を教えてもらうなど5名でお互いに技術や経験を教えあっている。なお、5名のうち、私以外は漁家子弟であり、地区外の第三者が貝桁網漁業に就業するのは、私が初めてである。

## 7. 今後の課題や計画と問題点

今後の目標として、まずは、私も早く舵を持ちたいと考えている。舵を持つということは責任が重く、漁の前日は眠れないとも聞くが、自分の狙った場所で操業して結果を出せたらとても充実感があるだろうと考えている。今は、資源量調査などの際に練習させてもらっている段階である。

私は将来的には、貢栄丸を引き継ぎ、長生地区の貝桁網漁業を守っていきたいと考えている。

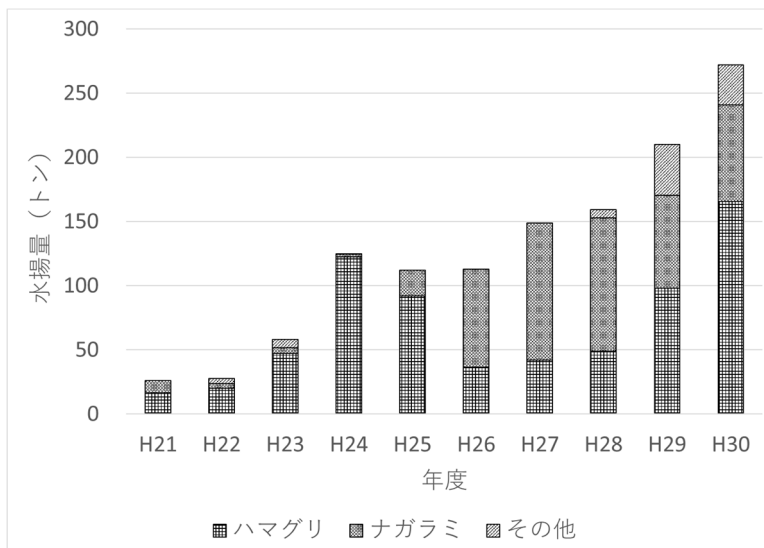


図9 長生小型船団の水揚量の動向

まずは、貢栄丸の船主である三橋さんが安心して引き継げるように技術を身に着け、認めてもらいたい。

三橋さんと私の場合は、身内で事業を引き継ぐわけではないことから、事業資産を譲り受けなければならないなどハードルは高い。バトンを渡す側である三橋さんとバトンを受け取る側である私とで息をうまく合わせられるよう、よく話し合っ準備を整えていきたい。円滑に引き継いでいくことができれば、九十九里地域における第三者間の事業の引き継ぎのモデルケースになると考えている。

船を引き継いだ後の話となるが、貝桁網以外の漁業にも挑戦したいと考えている。いすみ市での長期研修中は様々な漁業を経験させてもらった。設備や漁具に多くの費用が掛かるものをすぐにやるのは無理だが、費用があまり掛からないひき縄など比較的取り組みやすいものからまずは始めたい。

長生地区の漁業者は、玉ねぎや水稻の栽培など農業を兼業している者が多い。私も他の漁業者と同じように兼業を考えている。現在は、若手漁業者の仲間の畑や観光地引網の手伝いを行っており、将来に向けて準備中であるが、漁業経営の安定化を図るため、自分も畑を持ち、漁の無い日は農作業を行いたい。また、観光地引網もやってみたいと考えている。

船団としては、より一層の価格の向上を図るため、需要が高まる春先に重点を置くなど消費者のニーズに合わせた操業時期の見直しをしていきたいと考えている。

私が漁業に就業するにあたっては、短期研修から長期研修の流れがとても役に立った。今後、同様の流れで漁村地区外の人が漁業にもっと就業してほしい。特に九十九里地域の仲間が増えれば、と思っている。

サーフィンを今後も続けながら、これまでの持続可能な漁業を受け継ぐとともに、新しいことにも挑戦し、自分なりのライフスタイルを作りたいと考えている。